

「社会貢献(ボランティア)」に関するアンケート調査 及び その結果分析とSAAからの提案について

作成:ソーシャルアクションアカデミー6チーム (チームメンバー)浅山、石山、磯崎、太田、小櫃、枚田、 山田、若林、渡辺

2024.12.18

目次



前提の確認	アンケート実施方法	P.3~		
1333AC - 9 FILLION	アンケート回答者の傾向	P.4~		
	アンケートの分析軸	P.8~		
分析	軸ごとの分析結果	P.9∼		
	アンケートから読み取れること	P.17~		
提案	アンケート結果に基づいたSAAからの提案	P.18~22		

アンケート実施方法



調査方法	Workplaceでの告知・友人知人への回答依頼 *Workplace:サービスグラントが採用しているコミュニケーションプラットフォーム
調査期間	2024/11/16~11/23(1週間)
アンケート構成	SAA・社協・ボランティアの3構成
設問数	22問
回答時間(平均)	11分
位置づけ	社会福祉協議会などの社会的な団体が、 社会貢献意欲のある区民とより効率的に接点を持つためのアプローチ方法の調査
回答者数	173名

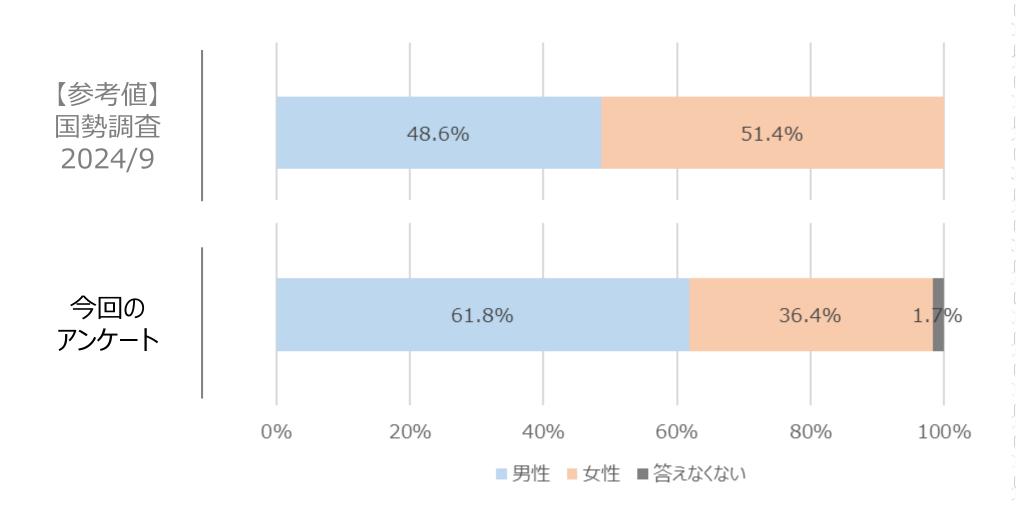
前提の確認

分析

アンケート回答者の傾向(男女比)



● アンケート回答者の構成は、男性が61.8%と女性(36.4%)よりも多くなっている。



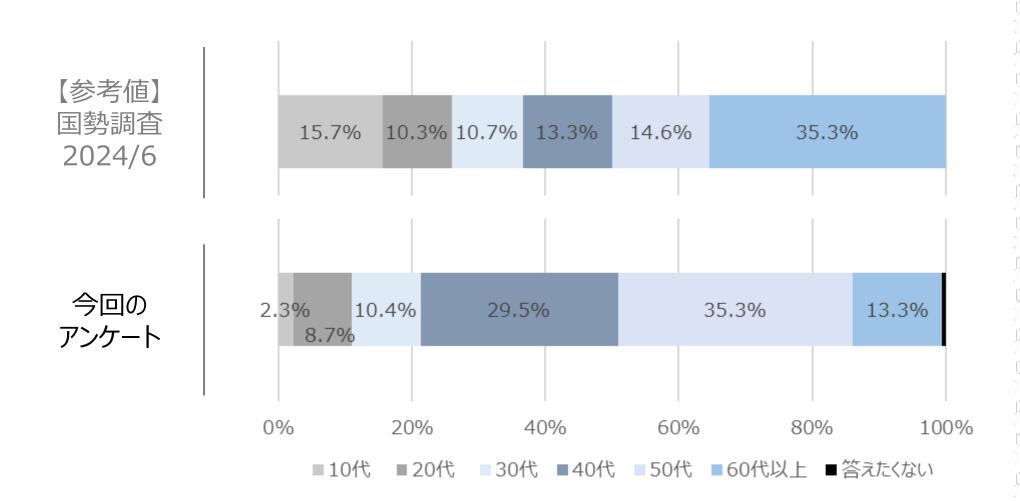
前提の確認

分析

アンケート回答者の傾向(年代)



● アンケート回答者の構成は、40代(29.5%)・50代(35.3%)で半数以上を占めている。



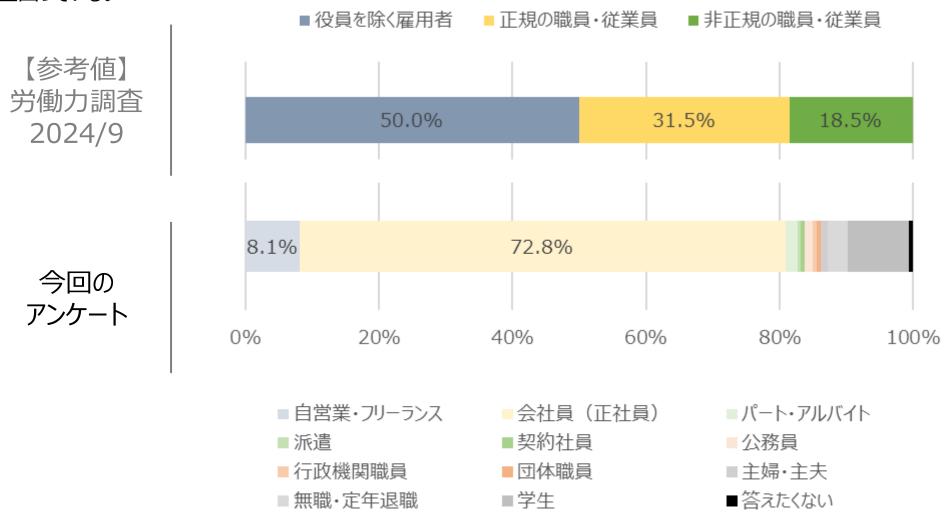
前提の確認

分析

アンケート回答者の傾向(職業)



● アンケート回答者の構成は、会社員(正社員)が72.8%となり、自営業・フリーランスや非正規職員を大幅に 上回っている。



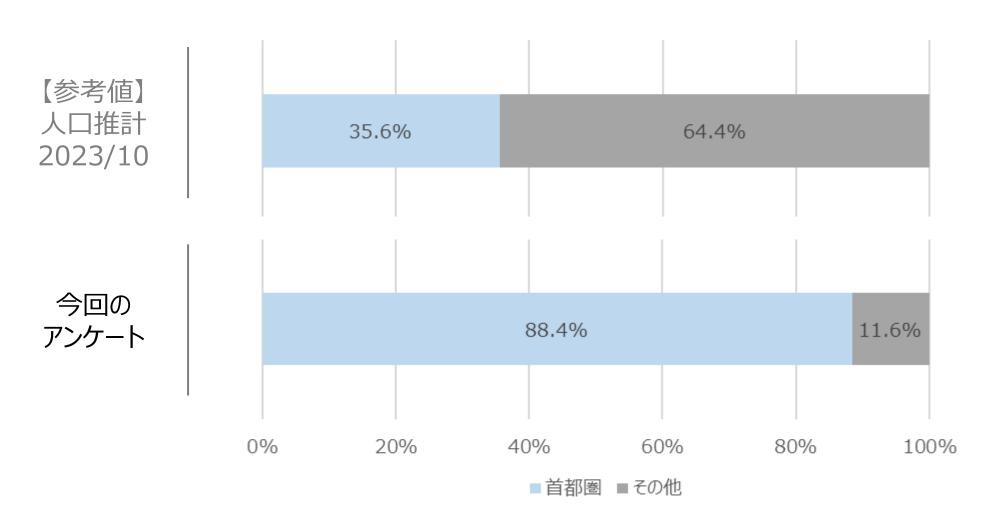
前提の確認

分析

アンケート回答者の傾向(住まい)



● アンケート回答者の構成は、首都圏が88.4%(内、東京都は53.2%)となり、その他の都道府県からの回答者(11.6%)を大幅に上回っている。



前提の確認

分析

アンケートの分析軸



#	観点	詳細説明	前提の確認
1	居住年数×ボランティア経験×居住地 (都内・それ以外・ALL)	✓ 居住期間が長いほど、地域参加の機会や地域への貢献意識が高まる可能性があるかを検証した	分析
2	年代×興味がある分野	✓ 年代ごとに関心を持つテーマが差異が見られるかを検証した	提案
3	年代×ボランティア経験×ボランティアに 参加するときのネック(阻害要因)	✓ 年代や過去のボランティア経験有無によって、ボランティアに参加を検討する際にハードルとなる要素が異なるか を検証した	
4	年代×N1(印象に残ったエピソード)	✓ ボランティアの新規参加を増加させるためのアピールポイントを探る目的で、プロボノ活動やボランティア経験者の印象に残ったエピソードをカテゴライズ・分析した	
5	年代×ボランティアに参加してみたいと思う条件	✓ 参加してみたいと思う条件(自由回答)は、年代ごとに違いがあるのかを検証した	
6	年代×ボランティア経験×ボランティアに ついて耳にする頻度	✓ ボランティアについて耳にする頻度(5段階回答)とボランティア経験の有無と組合わせて、ボランティア経験がある方がボランティアについて耳にすることが多いかを検証した	
7	年代×社協を知ったきっかけ	✓ 新たな相談者やボランティアにリーチするための流入経路の参考とすることを目的とし、社協を知っていると回答した人を対象に、社協を知ったきっかけとなる媒体を検証した	
8	年代×社協の活動イメージ	✓ 社協が発信している内容や活動がどのように住民には受け取られているのか、年代によって身近に感じるテーマが違うか、の2点を検証した	

1. 居住年数×ボランティア経験



居住期間が長いほど、地域参加の機会や地域への貢献意識が高まる可能性があるかを回答内容から検証した

前提の確認

分析

提案

全体

ボランティア 経験者 経験 回答者数 経験なし 経験あり 比率 居住年数 ~ 5年 40 52.5% 19 6~10年 22 16 72.7% 6 11~20年 51 15 36 70.6% 20年以上 60 25 35 58.3%

65

108

62.4%

173

東京都

回答者数	経験なし	経験あり	経験者 比率
19	7	12	63.2%
14	3	11	78.6%
29	9	20	69.0%
30	13	17	56.7%
92	32	60	65.2%

東京都以外

回答者数	経験なし	経験あり	経験者 比率
21	12	9	42.9%
8	3	5	62.5%
22	6	16	72.7%
30	12	18	60.0%
81	33	48	59.3%

結果から言えること

全体

- 全体的に、居住年数が5年以下よりは6年以上の方がボランティア経験が高い傾向が見られた。一方で20年以上の場合は逆にボランティア経 験者が低くなっていく傾向もあり、必ずしも居住年数との関連があるとは言えない。
- 居住年数に比例しない傾向から、当該地域への居住年数が短くても、きっかけさえあれば社会貢献をしたいという人を取り込むことは可能と考え えられる。特に東京都内は、他の都道府県と比較して居住期間が短くてもボランティアに参加している傾向がある。

2. 年代×興味がある分野



カテゴリ	興味がある分野	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	全体
回答者数		12	13	37	30	16	108
	まちづくり	100%	62%	62%	50%	50%	61%
1.地域社会·防災	地域防災	0%	0%	3%	0%	0%	1%
	地域安全	0%	8%	8%	17%	19%	11%
つ 独立・フじょ	教育·研究	33%	46%	46%	30%	38%	39%
2.教育・子ども	子ども育成	25%	38%	49%	37%	56%	43%
	保健·医療·福祉	25%	38%	38%	50%	50%	42%
	健康	0%	0%	0%	0%	6%	1%
3.健康·福祉	ウェルビーイング	0%	0%	0%	0%	6%	1%
	障がい者に関する「社会の障害」について (保険・医療・福祉の範疇ではないと考えている)	0%	0%	0%	0%	6%	1%
4 团购执力 《《宇士操	国際協力	17%	15%	24%	10%	6%	16%
4.国際協力・災害支援	災害支援	33%	23%	19%	30%	13%	23%
	自然保護	8%	8%	19%	33%	13%	19%
5.環境·自然保護	清掃	0%	8%	0%	0%	0%	1%
	農業、食料	0%	0%	0%	3%	0%	1%
C /△III 1 +/=	道徳 倫理	0%	0%	0%	3%	0%	1%
6.倫理・人権	人権	8%	23%	11%	20%	19%	16%
7.芸術·文化	芸術·文化	50%	31%	22%	17%	13%	23%
8.社会課題全般	社会課題全般	0%	0%	0%	0%	6%	1%

結果から言えること

- 「まちづくり」は全体で最も関心が高く、特に20代以下では全員が関心を示し、他の年代でも半数以上が関心を寄せている。
- 「教育・研究」は30代と40代の子育て世代で関心が高く、「子ども育成」では60代以上の過半数が興味を持っている。
- 「保健・医療・福祉」は50代と60代以上で半数以上が支持を集めており、他の年代に比べて高い傾向が見られる。

前提の確認

分析

3. 年代×ボランティア経験×ボランティアに参加するときのネック(阻害要因)



	ボランティア経験なし								ボランティア	ア経験あり			
阻害要因	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	経験なし 全体	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	経験あり 全体	全体
回答者数	7	5	14	31	7	64	12	13	37	30	16	108	172
トライアル期間があると良いです。	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	0%	1%	1%
ボランティアを受け入れる団体等に不信感がある	14%	0%	21%	10%	14%	13%	25%	38%	24%	23%	13%	24%	20%
ボランティア活動に関する十分な情報がない	43%	20%	71%	65%	57%	59%	50%	62%	46%	37%	13%	41%	48%
意識がない	0%	0%	0%	3%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%
一緒に参加する人がいない	43%	0%	7%	13%	14%	14%	8%	0%	5%	7%	13%	6%	9%
家族からの理解が得られない	0%	20%	7%	10%	0%	8%	0%	0%	11%	3%	6%	6%	6%
活動するチームワーク	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	1%	1%
活動自体に価値や意義を見出せるかどうか	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	0%	1%	1%
参加しても実際に役に立っていると思えない	29%	20%	0%	6%	0%	8%	8%	23%	24%	23%	6%	19%	15%
参加するための休暇が取りにくい	29%	0%	7%	13%	29%	14%	33%	23%	8%	13%	19%	16%	15%
参加するための手続きが分かりにくい	57%	60%	29%	32%	14%	34%	17%	15%	22%	17%	13%	18%	24%
参加する際の経費(交通費等)の負担	43%	60%	21%	13%	29%	23%	25%	8%	24%	17%	25%	20%	22%
参加する際の保険が不十分	0%	0%	0%	3%	0%	2%	8%	8%	0%	0%	6%	3%	2%
参加する時間がない	14%	60%	71%	58%	14%	52%	42%	46%	46%	47%	44%	45%	48%
参加する体力が足りない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	1%	1%
自信の強い意思	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	1%	1%
自分が役に立つかどうか不安	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	8%	0%	0%	0%	1%	1%
団体や活動に関わる人たちの人柄や雰囲気	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	0%	1%	1%
特に妨げとなることはない	0%	0%	0%	6%	43%	8%	17%	8%	14%	17%	25%	16%	13%

結果から言えること

- 「ボランティア活動に関する十分な情報がない」は全体で最も多く挙げられた課題であり、ボランティア経験のない層では40代以降の半数以上が、経験のある層では30代以下の半数以上が挙げており、反転した傾向が見られる。
- 「参加するための手続きが分かりにくい」は、ボランティア経験のない層の30代以下で特に多く挙げられており、約半数がこれを課題としている。
- 「参加する時間がない」は、ボランティア経験のない層では30代、40代、50代の就労世代で課題として挙げられ、経験のある層では各年代が まんべんなく課題としている。

前提の確認

分析

4. 年代×N1 (印象に残ったエピソード)



● 「あなたが、プロボノ活動もしくはボランティア活動に参加されて、得られた達成感について、具体的なエピソードを教えてください」という設問の 回答を下記のカテゴリ分類で分類分けを行い、年代別で比較を実施した

前提の確認

分析

提案

カテゴリ	条件・キーワード	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	全体	
回答者数		12	13	37	30	16	108	
1. 得られた気づき・学び	気づき, 学び, 視野, 理解, 洞察, 広がる, 新しい視点, アップデート, 知識, 発見, 意識, 価値観, 改善された, 新しい発見	25%	23%	24%	23%	25%	24%	
2. 人との関わり	人, 関わり, 交流, 対話, 仲間, 新しいつながり, 他者との接触, 話す機会, 業務では出会えない, 協力, 絆, 信頼, チーム, 他者との協力, グループ	8%	31%	30%	17%	25%	23%	17
3. 実現した成果	成果,達成感,成功,貢献,実現,目標達成,プロジェクト完了,満足感,結果,ゴール,アウトプット,結果を出す,成果を実感	33%	23%	5%	13%	25%	16%	
4. 自己成長・キャリアへの 影響	成長, キャリア, スキルアップ, 自己, 経験, 能力向上, 進歩, 学びがある, ポテンシャル, 挑戦, 自己開発, 未来, 成長機会, 個人的な成長, スキル向上, 自分の成長	8%	0%	14%	3%	0%	6%	
5. 社会への貢献	社会, 支援, 貢献, 地域, 役立つ, 社会貢献, 価値を生む, 地域社会, 役割, 世の中, インパクト, 奉仕, 社会のため, 公益	8%	15%	14%	23%	6%	15%	
6. 活動の特性・課題	活動, 特性, 特徴, 独自性, 形式, 仕組み, ユニーク, 構造, 内容, 課題, 難しい, 改善, 制約, 不満, 困難, 方法, 解決, 工夫, プロセス, やり方, 実行計画	8%	0%	8%	3%	0%	5%	
7. その他	上記のどのカテゴリにも該当しない回答	8%	8%	5%	17%	19%	11%	

結果から言えること

- 「得られた気づき・学び」は全体で最も多く、全年代でほぼ均一に見られ、大きな偏りがない。
- 「人との関わり」は、30代と40代で他の年代よりも高い傾向が見られる。
- 「実現した成果」は、20代以下で他の年代よりも高い割合を示している。

5. 年代×ボランティアに参加してみたいと思う条件



分析

		ボランティア経験なし					ボランティア経験あり						
	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	経験なし全体	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	経験あり 全体	全体
回答者数	5	5	7	21	6	44	9	7	24	28	14	82	126
1参加のしやすさ	40%	0%	29%	19%	17%	20%	11%	43%	25%	11%	29%	21%	21%
2時間や日程の柔軟性	20%	40%	0%	29%	33%	25%	33%	29%	17%	29%	29%	26%	25%
3活動内容や目的の明確さ	20%	20%	14%	14%	0%	14%	11%	0%	21%	21%	14%	17%	16%
4参加者との関係性・人間環境	20%	0%	0%	10%	50%	14%	33%	0%	21%	11%	14%	16%	15%
5個人の関心やスキルとの適合性	20%	0%	14%	19%	17%	16%	33%	0%	29%	32%	36%	29%	25%
6団体や環境の信頼性	0%	20%	0%	0%	17%	5%	22%	14%	33%	18%	0%	20%	14%
7参加の動機付けや情報提供	0%	0%	14%	5%	17%	7%	0%	0%	13%	4%	0%	5%	6%
8わからない	0%	0%	29%	10%	0%	9%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%

結果から言えること

- 「ボランティア経験なし」の場合、20代以下から50代まで、「参加のしやすさ」「時間や日程の柔軟性」を挙げた人が最も多く、3~4割を占めた。
- 「ボランティア経験あり」の場合、20代以下、40代、50代、60代では「個人の関心やスキルとの適合性」を上げた人が約3割と多かった。次いで、「参加 のしやすさ」または「時間や日程の柔軟性」がおおむね3割弱った。
- 「参加の動機付けや情報提供」は、「ボランティア経験なし」の60歳以上は17%だったが、その他の年代は、ボランティア経験の有無をとわず、ほとんどが0 ~ 5%以下だった。

6. 年代×ボランティア経験×ボランティアについて耳にする頻度



前提の確認

分析

提案

※耳にする頻度:1(全く見聞きしたことがない)~5(ほぼ毎日見聞きする)

								,,	0 <i>)</i> ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	± (70)=10070	CC/3 1010 /	у (1010-711) с	11200
			ボランティア	7経験なし			ボランティア経験あり						
	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	経験なし 全体	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	経験あり 全体	全体
回答者数 耳にする頻度	7	5	14	31	7	64	12	13	37	30	16	108	172
1	0.0%	40.0%	28.6%	16.1%	0.0%	17.2%	8.3%	7.7%	27.0%	20.0%	6.3%	17.6%	17.4%
2	57.1%	60.0%	50.0%	64.5%	85.7%	62.5%	50.0%	61.5%	48.6%	40.0%	43.8%	47.2%	52.9%
3	0.0%	0.0%	21.4%	16.1%	0.0%	12.5%	41.7%	30.8%	16.2%	30.0%	31.3%	26.9%	21.5%
4	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	6.3%	0.0%	0.0%	2.7%	6.7%	6.3%	3.7%	4.7%
5	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	5.4%	3.3%	12.5%	4.6%	3.5%

結果から言えること

● ボランティア経験ありの方が、なしに比べて多少はボランティアについて耳にする頻度が高くなる傾向がうかがえるが、顕著な違いは見られなかった。

7. 年代×社協を知ったきっかけ (対象者:「社協の活動を知っている」と回答した人)



カテゴリ	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	全体
回答者数	5	6	20	18	15	64
X(Twitter)	0%	33%	0%	0%	0%	3%
Facebook	0%	33%	0%	6%	7%	6%
Instagram	0%	17%	0%	0%	0%	2%
上記以外のSNS	0%	17%	5%	6%	0%	5%
地域のイベント	20%	33%	35%	22%	47%	33%
知人の紹介	40%	0%	10%	17%	13%	14%
広報誌	0%	33%	20%	11%	27%	19%
新聞の折込チラシ	20%	0%	5%	0%	7%	5%
仕事•業務	20%	0%	15%	11%	7%	11%
プロボノ・ボランティア活動	0%	17%	30%	28%	13%	22%
学校	20%	0%	0%	0%	0%	2%
民生委員	0%	0%	0%	11%	0%	3%
Web検索	0%	17%	0%	6%	0%	3%
社協の活動との接点	0%	17%	5%	0%	7%	5%
元々知っている	0%	0%	0%	6%	7%	3%

結果から言えること

- 回答は分散傾向が強く、特定の流入経路への偏りがない結果となった。
- 地域のイベント参加やプロボノ・ボランティア参加など、実際に地域参加やボランティア参加の行動に移して初めて社協を知る人が多いと考えられる。
- 一般に広く情報提供している媒体という観点では広報誌が若干高い。SNSがきっかけになっている年代はかなり限定的。各社協が情報発進の媒体としてどの程度SNSを活用しているかにもよるため発信状況と照らして判断が必要。

前提の確認

分析

8. 年代×社協の活動イメージ



● 社協が発信している内容や活動がどのように住民には受け取られているのか、年代によって身近に感じるテーマが違うか、 の2点を確認するために年代と社協へのイメージの軸で検証した

カテゴリ	20代 以下	30代	40代	50代	60代以上	全体
回答者数	19	18	51	61	23	172
高齢者支援	79%	89%	67%	62%	65%	69%
障がい者支援	68%	83%	49%	51%	70%	58%
子ども・子育て支援	47%	56%	53%	48%	65%	52%
生活困窮者支援	37%	56%	61%	44%	65%	52%
地域づくり活動	63%	56%	55%	52%	65%	56%
健康増進活動	16%	28%	16%	15%	30%	19%
災害時支援·防災活動	11%	17%	20%	15%	43%	20%
相談業務	42%	44%	49%	33%	61%	44%
見守り活動	37%	50%	33%	28%	48%	35%
地域のイベント企画・運営	42%	33%	29%	28%	48%	33%
その他	0%	0%	8%	13%	0%	7%

結果から言えること

- 高齢者支援、続いて障害者支援が幅広い年代から認知されている。健康増進活動や災害・防災支援は認知度が低い。
- とくに60代は、社協が幅広いテーマに関与しているイメージを持っている。一方で、40代は全テーマで全体平均を下回っている。20,30代はテーマによる認知度の落差が大きい。
- 子育て世代が子育て支援、高齢者が高齢者支援など、当事者が多い年代により強く認識されているという傾向はそれほど見られない。
- 相談業務は全体平均でも44%となっており、コーディネーターの活動をはじめ「どこに行けばよいかわからない相談事は社協へ」というイメージを 定着させるためには、まだ改善の余地があると言える。

前提の確認

分析

提案

16

アンケートから読み取れること



	_						
#	<i>‡</i>	観点	読み取れること				
1	1	居住年数×ボランティア経験×居住地 (都内・それ以外・ALL)	居住年数が5年以下よりも6年以上の方がボランティア経験が高い傾向が見られた一方で、ボランティア経験と居住年数は完全には比例する関係にはなかったため、当該地域への居住年数が短くても、きっかけ作りができれば社会貢献に興味を持つ人を地域のボランティア活動に取り込むことは可能だと考えられる	分析			
2	2	年代×興味がある分野	 ボランティアにおいて「まちづくり」は全世代で関心が高く、特に20代以下は100%が興味がある分野として回答した 「教育・研究」は子育て世代(30代・40代)の関心が高く、「保健・医療・福祉」は50代以上、「子ども育成」は60代以上で関心が高い分野となっており、年代ごとの関心の違いが見受けられた 	提案			
ボランティアの級者向け施策	8	年代×ボランティア経験×ボランティアに 参加するときのネック(阻害要因)	・ ボランティア活動における課題として、情報不足が全体で最も多く挙げられ、経験の有無で年代ごとに異なる傾向が見られた・ また、手続きの難しさは未経験者の若年層で、時間の確保は就労世代で大きな課題となっており、これらの改善が参加促進につながると考えられる				
	1	年代×N1 (印象に残ったエピソード)	 プロボノやボランティア活動は、20代以下には成果や達成感を得る場、30代・40代には人とのつながりを深める場、そして、全世代には気づきや学びを得る場となっているため、年代に応じた活動体験を作ることが求められると考えられる 				
ボランティアの級者向け施策	- 5	年代×ボランティアに参加してみたいと 思う条件	「参加のしやすさ」や、「時間や日程の柔軟性」は、ボランティア経験の有無を問わず、参加したいと思う条件として重視されていたまた、ボランティア経験ありの場合、「個人の関心やスキルとの適合性」も参加要因となる				
6	5	年代×ボランティア経験×ボランティアに ついて耳にする頻度	・ ボランティアについて耳にする頻度は、ボランティア経験の有無にあまり左右されないと考えられる				
7	7	年代×社協を知ったきっかけ	社協を知った媒体はばらつき大きく、特定の手段・媒体への偏りは見られなかった地域のイベント参加やプロボノ・ボランティア参加など、実際に地域参加やボランティア参加の行動に移して初めて社協を知る人が多いと考えられる				
8	3	年代×社協の活動イメージ	 「高齢者支援」、続いて「障害者支援」が幅広い年代から認知されている。「健康増進活動」や「災害・防災支援」は認知度が低い 「相談業務」は全体平均でも44%となっており、コーディネーターの活動をはじめ、「どこに行けばよいかわからない相談事は社協へ」というイメージを定着させるための余地がまだあると言える 				

提案内容(ボランティア初級者向け施策)①



分析

年代×ボランティア経験×ボランティアに参加するときのネック(阻害要因)

ボランティア経験なし 阻害要因 経験なし 60代以上 20代以下 30代 40代 50代 全体 回答者数 7 31 5 14 7 64 ボランティアを受け入れる 14% 0% 21% 10% 14% 13% 団体等に不信感がある ボランティア活動に関する 59% 43% 71% 65% 57% 20% 十分な情報がない 意識がない 0% 0% 0% 3% 0% 2% 一緒に参加する人がいない 13% 14% 43% 0% 7% 14% 家族からの理解が得られない 0% 20% 7% 10% 0% 8% 活動するチームワーク 0% 0% 0% 0% 0% 0% 活動自体に価値や意義を 0% 0% 0% 0% 0% 0% 見出せるかどうか 参加しても実際に 29% 20% 0% 6% 0% 8% 役に立っていると思えない 参加するための休暇が取りにくい 29% 0% 7% 13% 29% 14% 参加するための手続きが 57% 60% 29% 32% 14% 34% 分かりにくい 参加する際の 23% 43% 60% 21% 13% 29% 経費(交通費等)の負担 参加する際の保険が不十分 0% 0% 0% 3% 0% 2% 参加する時間がない 60% 71% 58% 14% 52% 14% 0% 参加する体力が足りない 0% 0% 0% 0% 0% 自信の強い意思 0% 0% 0% 0% 0% 0% 0% 自分が役に立つかどうか不安 0% 0% 0% 0% 0% 団体や活動に関わる人たちの 0% 0% 0% 0% 0% 0% 人柄や雰囲気

0%

0%

6%

43%

0%

特に妨げとなることはない

年代×ボランティアに参加してみたいと思う条件

提案

	ボランティア経験なし							
	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	経験なし 全体		
回答者数	5	5	7	21	6	44		
参加のしやすさ	40%	0%	29%	19%	17%	20%		
時間や日程の 柔軟性	20%	40%	0%	29%	33%	25%		
活動内容や 目的の明確さ	20%	20%	14%	14%	0%	14%		
参加者との 関係性・ 人間環境	20%	0%	0%	10%	50%	14%		
個人の関心や スキルとの適合性	20%	0%	14%	19%	17%	16%		
団体や 環境の信頼性	0%	20%	0%	0%	17%	5%		
参加の動機 付けや情報提供	0%	0%	14%	5%	17%	7%		
わからない	0%	0%	29%	10%	0%	9%		



8%

● ①ボランティア情報の発信方法や、②多様なボランティアプログラムの企画、 ③ボランティア参加へのハードル下げるための仕掛け(学校や企業との連携) の分野で施策を検討することが効果的だと考えられる

提案内容(ボランティア初級者向け施策)②



分析

提案

具体的な施策内容

①ボランティア情報の 発信方法

施策カテゴリ

- 発信時のカテゴリ分けを明確にする(初心者歓迎/単発・長期/ 週末のみ など)
- ボランティア内容や役割・当日の流れを明確に発信する
- 体験談を募集ページに掲載し、ボランティアのイメージを持ってもらい 易くする

②多様なボランティア プログラムの企画

- 参加日時の柔軟性向上させる(土日の実施・単発のみの参加OK など)
- 参加方法の柔軟性を向上させる(オンライン参加で完結できる・友 達と一緒に参加できる など)
- 地域イベントと類似する内容のボランティア案件を作る (演奏会のイ ベントに参加した人に、他の演奏会イベントの運営ボランティアの募 集案内を渡す など)

③学校や企業との連携

- 学校と連携し若年層のボランティア参加を促す
- 企業と連携し、職場単位で参加できるボランティアを企画する

● 千代田区 多様なカテゴリが設定されている ボランティア募集 « ちよだボランティアセンター

● 台東区社会福祉協議会 興味関心分野でフィルターがかけられる ボランティア募集情報 | 台東区社会福祉協議会

参考にできそうな事例

- とさっこタウン 目的や参加の流れを明確に伝えている https://tosacco-town.com/volunteer/ https://kankyoshimin.org/article/blog-250/
- 群馬県 若者が共感し「参加したい」「参加してよかった」と思うボラン ティア活動にするための工夫の紹介 https://www.pref.gunma.jp/site/npoborantia/198857. html
- 株式会社activo 活動場所や活動テーマなど幅広いボランティア案 件を見つけられる

ボランティア募集情報満載! | activo (アクティボ)

- 東京ボランティアレガシーネットワーク 自分に合ったボランティアを見つ けられる仕掛けがある
 - ボランティアはじめの一歩:あなたにぴったりなボランティアをチェック!
- 公益財団法人日本財団ボランティアセンター ボランティア基礎講座 の実施や大学生のボランティア参加機会の醸成についての紹介 https://www.volacen.jp/project/#disseminating ボランティアに関する大学連携|日本財団ボランティアセンター

提案内容(定年退職後の60代の方へのアプローチ)①



提案対象

定年退職後の60代の方へのアプローチ

アンケートから 言えること

● 興味がある分野:

子ども育成、保健医療福祉、まちづくり

ボランティアに参加するときの阻害要因:(経験なし) 十分な情報がない(50代も同様)(経験あり) 時間がない(50代も同様、50代なしも)

- N1(印象に残ったエピソード):気づき・学び、人との関わり、実現成果に関するものが多くあげられた
- 参加条件:

(経験なし) 関係性・人間関係 (ダントツ) (経験あり) 関心・スキル、参加しやすさ、時間日程

- 耳にする頻度:総じて低い
- 社協を知ったきっかけ:地域イベント、広報誌
- 社協のイメージ:子ども、地域、相談

提案内容

- ●広報・接点作り(クリアすべき点:情報との接点・情報のわかりやすさ)
- ①くらしの導線上で広報(地域における敢えてのアナログな広報)
- ・スーパー、コンビニ、スポーツジム、社会人大学、病院、銀行、図書館、 カルチャー教室、ファミレス、居酒屋、ファストフード、ユニクロ等、中高年の 出没率が高そうな場所で、ポスター、リーフレット、カード等を設置。
- ・ポスティングや新聞折り込みチラシ、フライヤーの配布。
- ロコミでの勧誘。
- ②社協の媒体で広報
- ・地元のイベント、広報誌等で社協の勉強会、研修会等を告知。
- ③Webページの改修
- ・マッチング機能の追加、活動のカテゴリー分け、体験談、受益者の声等。

●提案内容(クリアすべき点:時間的な制約・人間関係の構築・スキルのマッチング)

①50代からの夜ボラ体験+飲みニケーション会

- ・時間的なネックをクリアするため、日中ではなく、夕方以降に参加可能な ボランティア活動を提案。
- ・自分のスキルが生かせるか、まずは体験という形で入口を作る。
- ・体験後にヒアリングを兼ねた懇親会を開き、周囲のメンバーとの親睦を 深めてもらい、次へのつながりを作る。

②地域のボランティア大学

- ・ボランティア活動の相談・探索支援とセットで、学習機会を提供する。
- ・区内大学や企業、NPOと連携して講座などへの参加ができる仕組みを作る。
- ・シニアが活動しやすいフィールドをまずは地域全体で作ることで、地域活動への 参加や生きがいつくりにつなげていく。

③SNS発信

・ユーザーの年齢層が高めのfacebook,x,youtubeを活用。

④地元企業との連携

- ・定年前の50代層を狙って、地元企業と連携、協力依頼をし、当該年代の 社員のボランティア参加を促す。
- ・人事部へ直接提案することが望ましい。

⑤大規模マンションの管理組合との連携

・大規模マンション内ではサークル活動が活発 直接管理組合または管理 会社に提案する。

⑥地域イベントへの参画

・子ども関連のイベントの見守り役、親御さんの相談対応などに借り出す。

前提の確認

分析

提案内容(定年退職後の60代の方へのアプローチ)②



他団体などの成功事例紹介

団体名:千代田区社協活動地域:千代田区

● 参考にできる施策の内容:昼間人口が多いエリア特性を活かし、地域にある企業に対し、地元のお祭りやイベント等のボランティア参加協力を実施。 台東区社協も同様に地元企業との連携を実施している。企業連携に関してはプロボノ・GRANTを活用するのも一手かな、と思いました。

団体名:豊島区社協活動地域:豊島区

● 参考にできる施策の内容:社協の活動内容を含めた講演会を定期的に 年3回実施。墨田区社協もボランティアフォーラムという会合を定期的に開催。講師を社協メンバーがやることで認知度UPにも繋がっている。

団体名:墨田区社協活動地域:墨田区

● 参考にできる施策の内容:区と連携し、プラットフォーム(ex. 笹塚十号)を区内に5カ所立ち上げ(今後新設も予定中)。プラットフォームでは定期的にイベントを開催し、幅広い年齢層に参画いただいている。

● 団体名:目黒区社協、おやじの会

● 活動地域:目黒区

● 参考にできる施策の内容:お父さんたちの地域団体の活動支援(広報支援など)

他団体などの成功事例紹介

①プロボノマッチング支援団体「二枚目の名刺」 ミドル世代(50~60代)にフォーカスした募集の頻度高め

https://nimaime.or.jp/to-individual

ミドル世代向け募集の事例:

https://activo.jp/articles/106564

②総務省「地域おこし協力隊」 https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/02gyosei08_03000066.html

50代向け募集告知事例:

https://smout.jp/plans/19783

上記2つは、実際のミドル世代の活動実績をWEBや説明会・イベントなどで幅広く情報提供している

前提の確認

分析

提案内容(定年退職後の60代の方へのアプローチ)③



他団体などの成功事例紹介

【見やすい参考サイト】】※広報・接点作り③の参考事例

団体名:東京ボランティアレガシーネットワーク

活動地域:東京都の公式ボランティアポータルサイト

内容: ①多彩な情報の中から、興味・関心や地域にあった活動が選べる、②ボランティアの魅力を伝える、読み物コンテンツの発信、③投稿機能の活用によるユーザー同士の

交流の場の提供を行っている

https://www.tokyo-vln.jp/

【マッチングサービス】】※広報・接点作り③の参考事例

サービス名: GBER (ジーバー)

内容:東京大学にて開発された高齢者に特化した就労マッチングサービス。数時間単位あるいは得意とするスキル単位でのマッチングを行う。本人のスキルや趣味・興味に合った活動とマッチングが可能。無理のない時間でボランティア活動に参加できる。

※令和4年度からは世田谷ボランティア協会にて、「世田谷版GBER」としてボランティアのマッチングサイトが運用開始

https://gber.jp/

【シニア活動への取り組み】※提案内容②の参考事例

団体名:渋谷生涯活躍ネットワーク「シブカツ」

活動地域:渋谷区

内容:「何かを始めたいけど何をすればいいかわからない…」というシニア層に向けて、専用のボランティア相談窓口を開設。学習機会を提供する区民大学「渋谷ハチコウ大学」も設置し、区内大学や企業と連携し、新たな学びの機会を提供し、シニアの生きがいづくりをサポートしている。

https://www.shibuya-shibukatsu.jp/

その他参考資料

前提の確認

※) 別途エクセルファイルを参照ください。

・ボランティアと地元企業の支援内容一覧

・今回実施アンケートの自由記述コメント一覧

分析

ソーシャルアクションアカデミー2024 活動報告資料について



本資料は、「ソーシャルアクションアカデミー」の参加者である、企業人・NPO職員・学生などのグループが作成した、 "ソーシャルアクション"の成果物です。本資料を引用される際は、出典について、以下の例を参考に記載いただきますようお願いします。

1. 資料のフッタにコピーライトを表示 【記載例】

- ©ソーシャルアクションアカデミー
- **©Social Action Academy**
- 1. 引用箇所の末尾等に資料の出所を表示

【記載例】

資料:ソーシャルアクションアカデミー

資料:ソーシャルアクションアカデミー 2024年度活動報告書より

資料:認定NPO法人サービスグラント『ソーシャルアクションアカデミー』2024年度活動報告書より

お問い合わせ

認定NPO法人 サービスグラント (担当: 岡本・柴岡)

SAA@servicegrant.or.jp 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-2-10

〒541-0047 大阪市中央区淡路町2-5-16 淡路町ビル8階

https://www.servicegrant.or.jp/

「ソーシャルアクションアカデミー」は、非営利組織とともにリアルな社会課題解決に挑戦する経験と、エキスパートによる講義やフィードバックを通じてビジネススキルを磨くことを両立する機会を提供する、超実践型アクションラーニングプログラムです。認定NPO法人サービスグラントが主催し、企業人、NPO職員、学生など多様なメンバーがグループを組み、協力者の力を得ながら、自発的に企画したアクションに取り組んでいます。